

「子ども向け平和祈念事業 案内リーフレットの作成」 事業

実施報告書

しゅしゅっとデザインの会 / 狛江市

令和2年3月

■ 事業実施目的

平和祈念事業で配布されている「みんなで輪をつくろう」の案内冊子は、大人向けの文章となっており、子どもにはわかりづらい文章や構成となっている。平和について考えるためには、狛江市内で空襲があったことが今後も語り継がれることが重要であり、まずは子どもたちに伝えることから始めるためにも、よりわかりやすい案内リーフレットを作成する。

■ 主催

しゅしゅつとデザインの会／狛江市

■ 事業形態

しゅしゅつとデザインの会と狛江市との市民協働事業
(平成 30 年度行政提案型市民協働事業)

■ メンバー

役職	氏名
代表	持木 慎子
副代表	内藤 奈菜
	穴戸 泉
	大脇 瑤子

■ 既存の「みんなで輪をつくろう」案内冊子



追江市平和祈念事業

5月25日みんなで輪をつくろう

昭和20年5月25日、追江村に空襲がありました。
その体験を「追江・語のつく戦争体験」から抜粋し
ました。
借りつかわれる他、市ホームページでも見ることができます。

（国民学校史上）
当時追江国民学校は、北面に平屋の古い木造校舎二棟（北面校舎）、正門正面に昭和七年に建て直された木造二階建て金瓦（土でなく焼物瓦）の立派な校舎があり、南側にも木造平屋建ての校舎一棟（南側校舎）があつて、「コ」の字型になつてゐた。二階建て校舎は新校舎と呼び、村人が誇りにしてゐた学校であつた。米軍機が投下した五十キロの焼夷弾三個は校舎の屋根を直撃して縁の下に火柱が立った。その火が縁の下をほつて音を立てながら広がりはやみ、火災がたちまち燃え上がりつゝ、平素から水を入れたバケツを校舎の前に並べ「さ」といふ時消火に使う訓練をしていたが、この時はバケツのことも眼中にならなかつた。いきなり校舎の中に飛び込み職員室にある重要書類を入れたアブリ製の箱を持ち出し校舎から離れた所の防空壕まで移した。二回目の運び出しをしようとした時、火の手は校舎全体を包み、中に入ることはできなかつた。この事を先ず校長に報告しなければと思つたが電話連絡はできず、電車も真夜中のごとく通つてゐない。どうしたらよいか思案してゐた。この学校の近くに住んでゐる石井澄子先生が、学校の安全を気遣つて自転車で駆け付けてくれた。その自転車を借りて久保倉原男校長宅（耕生村）まで急行した。事の次第を報告し、学校に戻つた時には既に夜も白々と明け、校舎は見えない。もなく焼け落ちて焼けた跡には到る所、煙が立ち上つてゐた。校庭に残されてゐたのは青年学校が使つた銃器室と校庭内の教員住宅、それに物置だけだつた。学校の周りの家も何軒か焼けていた。
戦争で私達の宝もろくろく学校を失つてしまつたことは、とても悲しく一生忘れられることのできない大きな出来事だつた。（横尾）

追江市・追江市平和祈念事業実行委員会
【お問合せ】追江市企画財政部政策室協働調整担当 03-34303011 64

（悪夢の五月二十五日夜半）

昭和二十年五月二十五日の夜、それは追江村に住む人々にとつて悪夢の一夜であつた。B29の無差別焼夷弾攻撃によつて随所に火の手が上り、村の貴重な財産である国民学校の校舎が烏有に帰した他、焼失家屋二十数戸に被害を受けた。翌二十六日十六時三十分の大本営発表は、「南方基地ノ敵B29約二百五十機ハ昨五月二十五日二十時三十分頃ヨリ約二時間半（二日）トシテ帝都市街地ニ対シ焼夷弾二萬無差別爆撃ヲ実施セリ。右三ヨリ宮城内表宮殿其ノ他並ニ大宮御所炎上セリ。都内各所ニ相当ノ被害ヲ生ジタルモ火災ハ私焼逃ニ限リ鎮火セリ。我制空部隊ノ遊撃戦果中判明セリモノ撃墜四十七機ノ外相当機數ニ損害ヲ受ケタリ。」といふものだつた。十九年の晩秋から東京にB29が空襲してくるようになり、三月十日未明の大空襲では大きな損害を受けた。中島飛行機や調布飛行場も何度か空襲の目標にされた。B29は南方基地を飛ばして、駿河湾沖から富士山をめぐりて編隊を組んでやってくる。そこで東京方面に向きを変えて襲ってくるのだ。だから追江はそのコースの範囲内に入つてゐた。高度一万メートル以上という超高度の編隊は、銀翼を連ねて美しく見えていた。しかし、その空襲の下にさらされた都民の悲惨さは地獄絵本のものであつた。三月十日以降区内で戦災を受けて縁故を頼つて追江に来る人が増えてゐた。疎開の荷物を預かる家、縁故疎開で親元を離れてやつてきた親戚の子どもも預かつた。「追江なら大丈夫だ。」だけれども何となくそう思つてゐた。
二十五日の夜、晴天。雨の風がやや強く空には月が冴えてゐた。空襲警報が発令されたのは夜の十時ごろだつた。B29の飛来はそれからも間もなくのように記憶する。いつものように高度を保つて平然と編隊が通過して行く。筆者の家の防空壕は小さくて狭かつた。それまで壕にもぐつたことは全くない。二階の西の窓からその編隊を眺めてゐた。突然、異様な落下音。それはなんながい。なまじや表現するが、空を裂いて落ちてくる焼夷弾のすさまじい音だつた。我が家の近くではなかつた。多摩川の方角だ、猪方らしい。バツと火の手が上がつた。続いてまた落下音、今度は西の方伊豆美神社の方角が赤く燃え上がった。いよいよやられるか。どう思つて階下へ降りようとしたその時、物すごい落下音を真上に感じた。学校が炎上したのはその時だ。筆者は急いで身支度をし、追江駅前の方角を出て、全速力で職場の農業会（現在のアインズ農協追江支店）へ向かう。大和屋商店の横の細い道を駆け抜けて行くその左手に、学校が燃えるバリバリという音が聞こえる。農業会は無事だ。駄倉の店が紅蓮の炎を上げてゐる。裏手の岩戸原の方角もかなり燃え広がつてゐた。作業場の屋根で裏の田んぼにばらまかれた焼夷弾の火の粉を払い落とした石黒勤次郎さんは、家族を連れて猪方の方角の方角の方角を引いて避難して行つた。B29の機影が見えなくなり爆音も聞こえない。どうやら収まるかと思つた。事務所の前の都道に出た。学校の燃えるのが気になつてゐた。その時、また編隊がやつて来た。学校の上から銀行町の方角へ行く。その編隊が真上に来たとき、最後尾の機が焼夷弾を落とした。前にも倍する落下音だ。慌てて事務所の東隣の奥畑に飛び込んでつ伏せた。バタバタと辺りに焼夷弾が落下して火の海になつた。農業会も炎上した。火を食い止めようとして焦つたが空しかった。農業会は事務所と作業所、倉庫が全焼した。石造りの農業倉庫が残つたが、屋根を貫いた焼夷弾で中の穀物がすすぶつてゐた。やがて駆けつけた警防団第六分団が、ホースを突っ込んで消し止めた。焼失した二つの金庫の中は、重要書類までは火が届かず無事だ。建物がほとんど燃え尽きたころ、東の空が明けてきた。農業会の周辺も、都道沿いに小田急線の踏切までの間の十数軒が全焼した。
村中にいばいば焼夷弾の油脂と明確臭いが立ち込め、焼け跡にくすぶる煙の向こうに、五月二十六日の朝の太陽は霞んでゐた。（田代）

■今回作成した「みんなで輪をつくろう」子ども向けリーフレット

作成部数：10,000部

狛江市平和祈念事業
＝ 5月25日 みんなで輪を作ろう！

この美しい青空から真っ赤な火の玉が降ってきたとしたら・・・。
想像するだけでも恐ろしいことが、ここ狛江でもありました。
「おはよう!」「おやすみ。」「ただいま!」「おかえり。」
そんな当たり前の日常が送れる今が平和なのかもしれませんね。

毎年5月25日はみんなで輪を作ろう!

昭和20年5月25日に狛江に空襲があったことから、同じ日に昔の狛江国民学校があった狛江駅北口にある「えきまえ広場」にて、平和を願いみんなで手をつなぎ輪をつくって写真を撮るイベントを行います。



このリーフレットは、「狛江・語りつく戦争体験」をもとに、小学校高学年から中学生向けに作成しています。
「狛江・語りつく戦争体験」は狛江市の中央図書館で借りることができるほか、市ホームページでも見ることができます。

狛江 戦争体験

このリーフレットは、「狛江・語りつく戦争体験」をもとに、小学校高学年から中学生向けに作成しています。
「狛江・語りつく戦争体験」は狛江市の中央図書館で借りることができるほか、市ホームページでも見ることができます。

Question
5月25日は何の日でしょう?

答えは中を見てね!

作 成：狛江市・狛江市平和祈念事業実行委員会
デザイン：しゅしゅっとデザインの会
問合せ先：狛江市企画財政部政策室企画調整担当
☎03-3430-1164

『狛江市平和祈念事業実行委員会』とは
経戦70周年から毎年、市と一緒に狛江市の平和を
を新るイベントとして、「5月25日 みんなで輪
をつくるう」などの啓発事業を行っています。

Answer

5月25日は、
昭和20年に狛江村に空襲があった日です。

※この頃は、まだ市ではありませんでした。

第二次世界大戦中の昭和20年3月10日に起こった東京大空襲のあと、狛江に逃げて来る人たちが増えていて、何となく「狛江なら大丈夫だ」とみんなが思っていました。そんな中、狛江にもB29によって無差別に焼夷弾が落とされ、いろいろな場所で火事が起こり、みんな逃げたり消火活動を行ったりしましたが、たくさんの被害が出ました。この日の空襲では、新宿や渋谷などに大きな被害が出ましたが、世田谷や調布などにもたくさんの焼夷弾が落とされました。

B29：アメリカが開発した爆弾を落とすための飛行機 焼夷弾：燃え広がりやすいように工夫された爆弾

市内に焼夷弾が落ちた場所

1 千町耕地 (現在の多摩川住宅)
※西和泉、調布市との間にあった一面の田圃地帯
大きな田んぼにも焼夷弾が落ち、火の海になりました。田植え前だったので、作物への被害はありませんでした。

2 狛江国民学校 (現在のえきまえ広場)
学校の屋根に焼夷弾が3つ落ちてきました。火柱が青を立てながら燃え広がり、青白い炎が上がっていきました。夜明けには校舎は見える影もなく焼け落ちてしまいました。みんなの宝物だった学校を失ってしまったことは、とても悲しい出来事でした。

3 農業会 (現在のマインズ農協狛江支店)
爆音が聞こえなくなってきたと思ったら、また飛行機がいくつも飛んできて、最後の機が焼夷弾を落としました。あわてて事務所のとなりの麦畑に飛び込んでうつぶせました。パタパタパタッとあたりに焼夷弾が落ちて、農業会は事務所も倉庫もすべて燃えてしまいました。

4 向こう岸の堤防～南部地域センター～駒井日枝神社付近
空襲が収まってきたころ、ゴーという大きな音がして、たくさんの焼夷弾が落ちてきました。爆発する様子は、線香花火をひっくり返したようで、たくさんの火花が散っていました。

参照元：「狛江・語りつく戦争体験」

■平成 31 年度 リーフレット配布先

- ・市立小学校 5 年生及び 6 年生
- ・市立中学校 全生徒
- ・5 月 25 日実施「みんなで輪をつくろう」イベント
(3 月の講演会においても配布予定だったが、中止のため配布せず)

■今後の活用

引き続き、狛江に空襲のあった 5 月 25 日にあわせて、小学校高学年～中学生へ配布したい。また、市内で行われる平和に関連するイベント等において配布し、広く市民が平和について考えるきっかけとしたい。

「子ども向け平和祈念事業案内リーフレットの作成」事業
実施報告書（平成 31 年度）
令和 2 年 3 月

しゅしゅっとデザインの会／狛江市

狛江市企画財政部政策室市民協働推進担当

TEL 03-3430-1164

FAX 03-3430-6870

E-mail kyodot@city.komae.lg.jp